

I. 東京外語会資料 解題

2012年9月、東京外国語大学文書館は、本学の同窓会組織である東京外語会(一般社団法人、以下、「外語会」と表記)より、東京外語会史資料群(以下、「資料群」と表記)の寄贈を受け、資料群の整理・目録化作業を行った。以下、この資料群の来歴と概要、寄贈から資料整理に至る経過を報告する。

1. 東京外語会資料群の来歴と概要

(1)資料群の来歴 ー東京外語会と同窓会編纂事業ー

まず、資料群の来歴を検討することで資料群の全体構造理解の一助としたい。来歴検討にあたって、資料群の寄贈元である東京外語会の略歴と、その一事業である同窓会編纂事業について概観する。

1)東京外語会の略歴

本学の前身、東京外国語学校は、1873年(明治6)4月に通弁の養成と専門学校入学を目指す者への予備教育を目的に設置された。英独仏露清の5学科からなる官立外国語学校として成立された東京外国語学校であったが、富国強兵・殖産興業が推進されるなか、「語学ハ商業ニ附属」する学問として、1885年(明治18)東京商業学校へ統合され、翌年廃校とされた。1896年(明治29)、日清戦争を経て、東アジアにおける対外的発展を目指す日本にとって海外事情に精通する「外国語ニ熟達スルノ士」の養成が急務となると、帝国議会に「外国語学校設立ニ関スル建議」が提出され、1897年高等商業学校に附属外国語学校が創立された。

同窓会組織は、1898年6月、このような紆余曲折の創立期を経た高等商業学校附属外国語学校の時代に結成される。前年に、10余年にわたる断絶から復帰を果たしたばかりの附属外国語学校であったが、学生の間では高等商業学校からの分離独立と学科の増設が叫ばれていた。1898年(明治31)5月28日、20余名の発起人たちは、神田今川小路玉川亭に集まり、学生の「世論」である分離独立と学科増設の二大要求を学校当局に請願する為、同窓会の結成を決議し、活動を開始した。彼らの活動は実を結び、学科増設、そして分離独立の達成に大きく貢献することとなった。なお同窓会では、この時期より『會報』を刊行し、自らの活動を記録化してゆくこととなる。

当初、在校生組織として発足した「同窓会」は、1900年に卒業生第1期生を輩出すると同時に、在校生の校友会と卒業生の同窓会に分れることとなった。校友会組織が運動部・文化部の活動運営へと発展してゆく一方で、同窓会組織は卒業生が活動の舞台を海外に置くことが多かったことも影響し、なかなか軌道に乗らなかった。1909年(明治42)に在京の卒業生がその活性化を呼びかけることはあったが、地方・海外へは活動の輪は広がらず限定的な組織であった。そうした状況を転換させたのが、1917-18年(大正6-7)の校名存続運動であった。「外国語」の校名存続を求めた卒業生らは、校名存続期成同盟会を組織し、同時に同窓会組織の確立の重要性を訴え、1918年2月17日に築地精養軒に集まり同窓会確立の決議を行った。そして再興された同窓会では、『會報』の刊行も行われた¹。しかし、1923年(大正12)の関東大震災を機に同窓会は再度崩壊してしまう。

震災後も卒業生の中では同窓会の復興が希求され、昭和に入ると、明治期卒業の古い同窓生たちの間

¹ 今回の寄贈資料群にはこの時期の会報は確認できていない。1919年(大正8)~1922年(大正11)の間に第1号~第4号が刊行され、第1号『會報』、第2号~第4号『東京外国語学校同窓會々報』の名称となっている。

では「十五日會」と呼ばれる会合が毎月 15 日に開催され、同窓会復活が話し合われた。そのような折、1930 年(昭和 5)11 月、語學大會の開催時に来観した同窓生たちが母校在職の同窓生たちと、協議・決議したことを機に、同窓会は復興に向かって歩みだした。この時、復興の中心となってゆくのは母校在職の同窓教員たちであった。彼らは同窓會復興準備協議會を組織し、同窓会規則の準備に当たった。1931 年、創立記念日に当たる 4 月 22 日に復興同窓会総会が催され、東京外語同窓會の発足が確認された。

復興した同窓会では『外語同窓誌 再興創刊号』を刊行した。資料群には再興第 1~4 号は欠落しているが、第 5 号以降の戦前に発行された会報の原本が『外語同窓會誌』の名称で確認できる(資料番号:C-b-4)²。再興された会報では、母校の様子が紹介された他、日本各地だけでなく、世界各地に築かれた支部の動向が伝えられ、国際色豊かな卒業生の活躍を伝える資料となっている。

本部を母校内に置き活動をしていた同窓会であったが、戦時下の 1942 年(昭和 17)に一つの転機を迎えた。6 月 28 日母校において開催された東京外語同窓會臨時總會において、東京外語同窓會は母校への一層の貢献を目指し、①東京外語會と改称し、②社団法人として発足し、③明治年度卒業生を代表する理事会・大正昭和年度卒業生を代表する委員会の二体制に「発展的」に改組することを決議した。また、同窓会の本部は母校の「物置小屋」の一角に間借りする状態であり、物質的にもその改善が望まれていた。しかし東京外国語學校は関東大震災以降長らく仮校舎の時代が続いており、中でも麴町区竹平町の校舎は、仮校舎でありながら約 20 年間も使用されていた。その為、長年校舎難に悩む母校にその代替を求めることはできず、同年 9 月、本部は学外の東京市神田區淡路町二ノ五昌平館に移転した。この改組に伴い会報は『東京外語會報』と改められた³。

戦後の混乱のなか、同窓会組織の活動は一時低迷を余儀なくされ、戦後の 1949 年(昭和 24)に石神井校舎で總會を開催した後、活動は停滞していた。再開したのは戦後の社会も落ち着いてきた 1956 年(昭和 31)であった。同年 11 月に總會が開催され、翌年には復刊第 1 号として『東京外語會報』も刊行され、継続されてゆくこととなる。会報は、1968-70 年代初頭の学園紛争の際にも継続され、母校の窮状を伝えていたが、1972 年(昭和 47)の一年間のみ未刊行となっている。同年については總會も未開催であり、その理由は「学内事情のため」となっているが、資料からその詳細は伺えない。その後は継続して刊行されている。

なお最後に、近年の変遷を紹介すると、2003 年(平成 15)4 月に有限責任中間法人として法人格を取得し、中間法人法の廃止と一般社団法人法の施行に伴い 2009 年 6 月に一般社団法人に転換し、現在、1 万名の会員を擁し活動をしている。

2)同窓史編纂事業

1997 年、外語会は「東京外国語大学創立百年」記念行事の一つとして『東京外国語大学同窓史』の刊行を目指した。これは当時、東京外国語大学が編纂を進めていた『東京外国語大学史』を卒業生が見た同窓史により側面から補完することを目的としたもので、卒業生より原稿・資料の収集が行われた。この外語会による同窓史編纂事業は、2005 年(平成 17)9 月にやむなくその刊行が断念されたが、本資料群はその『東京外国語大学同窓史』編纂の際に収集された資料群を中核に構成されている。その収集の経緯が資料群の来歴とも言えるため、次に、編纂事業を概観したい。

編纂事業は、1994 年の東京外語會総会で創立百年の記念事業の柱の一つとして立てられ、1996 年 12 月

² 再興 2 号(昭和 8 年 3 月 27 日発行)より、会誌名称は『外語同窓會誌』に改められた。

³ 会報の名称変更に伴い号数の連番が一時改められ、第二號(第八十號)、第三號(第八十一號)と表記されている。その後、連番に復帰したようである。

より準備会が発足し、開始された。準備会は、翌1997年3月の外語会常任理事会にて編纂委員会の発足が確認される迄の間、計3回(1996年12月27日、1997年2月10日、3月19日)にわたって開催され、その編纂方針の素案作成に当たった。

年度が変わった1997年4月9日、東京外語同窓百年史編纂委員会が発足されるとともに、第1回編集会議が開催され、準備会以来討議されてきた編纂の基本方針が確認された。基本構成は①各専攻語の卒業生による回想を基本とする「語科別ヒストリー稿」を中核に、②語科の枠組みを超えた卒業生の活躍・女子学生史などのテーマ稿や、③既に発表された回想記・関連記事、新規の聞き取りによる資料を加えたもので、1999年11月の刊行を目標としていた。(表1参照)

そして各語科ごとに同窓生から寄稿・資料を集める編集委員会が組織された。この「語科別編集体制」は目を引く点である。東京外国語大学では、その前身に当たる東京外国語学校以来、自身が専攻する言語「専攻語」が教育・研究上の重要な単位となっており、在校生・卒業生にとっても学内での自らの「帰属」を示す重要な単位となってきた。そうした歴史的背景が編纂体制に顕れ、後述の通り資料群の構成にも影響している。

【表1】同窓誌構想 (東京外語会会報80号(平成9年6月号)関連記事より作成)

構成	概要
本篇1	東京外語の出身者、関係者・団体の百年に及ぶ歩みの沿革篇。原稿は、委員会が以下の①～⑤を再編成・統合して作成。 ①語科別ヒストリー稿 ②個別テーマ稿(在外・分野別のOB・OGの活躍記、女子学生史、日本語学科留学生の回想記) ③応募原稿 ④聞書、既発表回想録、関係資料 ⑤グラフィック(写真や絵図など)史料
本篇2	回想記のセレクション篇。既発表回想録、聞書、応募原稿などから選考
資料篇1	東京外語史・同窓史関係資料篇
資料篇2	東京外語同窓百年史年表
索引	沿革(本編1)の総合記述を語科別およびテーマ別に通読するための索引

その後、編纂委員会での決定事項は、『東京外語会会報』80号で周知され、編纂計画に基づき、各語科同窓会の編集委員が中心となって、卒業生へのアンケート調査、寄稿依頼、資料や情報の収集が進められ、同時に隔月で開催される編集会議によってその進捗状況の確認・情報交換が行われた。しかし当初の予定では、1998年末に各専攻語の同窓誌原稿は提出が完了し編集に入る予定であったが、その予定は徐々に遅れを見せる。

この年史編纂事業の中心となった野中正孝編集委員長によると、2004年(平成16)の段階でまともな同窓誌稿は数編に過ぎず、教員の列伝・卒業生の略歴を主な内容としたもの、部分稿・下書きに関連資料を添えたもの、既刊本に発表済みのものなど、追加調査・加筆を必要とするものが多かったという。こうした状況は、編集委員長の野中氏に過大な負担を負わせることとなり、同窓史の出版は延期されていった。他方で、同窓史出版への期待は高まり、同年には東京外語会会報の誌面上で購入予約募集が掲載された。

2005年(平成17)、度重なる延期のなか、編纂事業は一つの転機を迎える。編纂の重荷を一手に背負ってきた編集委員長野中氏が入院する事態となり、これを機に外語会では編纂事業の継続の可否・方法が議論されることとなった。同年9月、年史編纂を取り扱う企業への外部委託を代替案とする事業継続も検討されたが、終に外語会理事会は「外語会事業として同窓史出版を中止する」ことを決定し、約8年に

及んだ編纂事業は終幕を迎えた。なお、この中止に際して、外語会は多大な調査・執筆の労を担った野中氏に「個人の作品として…、自費出版することは自由である」ことを約し、野中氏は2008年11月『東京外国語学校史—外国語を学んだ人たち』(不二出版)を出版している。また、いくつかの専攻語では、編纂の際に収集された原稿・アンケートをもとに、語科の同窓史を刊行している。

以上の編纂事業を経て、中止までの間に各専攻語編纂委員によって収集された原稿・アンケート、資料は、当時事務局が置かれていた銀座分室に保管された。その後、事務局の本郷サテライト 2 階への移転に伴い移管され、それらが今回文書館に寄贈された。これが本資料群の来歴である。

(2)資料群の概要

次に、資料群の概要を見ていきたい。資料群は先に言及した通り、その大部分は外語会が計画した『東京外国語大学同窓史』編纂に関わる資料群である。全体像は表 2 の通りで、主として、①同窓史編纂資料、②同窓会会員名簿、③会報、に分類される。

【表 2】資料群の全体像

単位	資料概要	目録番号	保管場所	移管時の箱
A	同窓百年史原稿・資料・アンケート回答(イタリア語科、アラビア語科、ペルシア語科、日本語科(留学生別科)、スペイン語科、タイ語科、ベトナム語科)	A-1-0 ~ A-5-46-1(止)	ロッカー1 上段・中段 ※詳細な区分は不明	段ボール 1
	同窓百年史原稿・資料・アンケート回答(フランス語科、ドイツ語科、英米語科)	A-6-0 ~ A-9-63(止)		段ボール 2
	同窓百年史原稿・資料・アンケート回答(ポルトガル語科、フランス語科、ドイツ語科、中国語科)、日新学寮関連資料	A-10-0 ~ A-13-37-5(止)		段ボール 3
	同窓百年史原稿・資料・アンケート回答(フィリピン語科、インド・パキスタン語科)、卒業者名簿、就職状況調査資料	A-14-0 ~A-25(止)		段ボール 4
	同窓百年史原稿・資料・アンケート回答(モンゴル語科、インドシナ語科)	A-26-0 ~A-34(止)		段ボール 5
	同窓百年史編纂・発刊に関する会議資料(事業報告等)	A-35-0 ~A-49(止)		段ボール 6
B	発信・着信文書綴、東京外語会理事会名簿・会議資料(収支報告書・総会資料・創立 75 周年記念事業等)	B-1 ~ B-39(止)	ロッカー2 中段	段ボール 7
	会員名簿	B-40 ~ B-110(止)		段ボール 8
	三五會関係書類綴、会員名簿	B-111-1 ~ B-121-2(止)		段ボール 9
C-a	同窓百年史編纂・発刊に関する会議資料(原稿進捗状況等)	C-a-1-0 ~ C-a-44-35-1(止)	ロッカー3 上段	段ボール 10
C-b	外語同窓會誌、東京外語會會報	C-b-1-0 ~ C-b-60-66-27(止)	ロッカー3 中段	段ボール 11
C-c	東京外国語大学新聞(コピー)、学園紛争関係資料	C-c-1-0 ~ C-c-16-28-6(止)	ロッカー3 下段	段ボール 12
	外語祭プログラム、外語祭・語劇に関する資料(明治 33 年~平成 3 年)	C-c-17-1-1 ~ C-c-40-28(止)		段ボール 13
D	東京外国語大学新聞	D-1 ~ D-254(止)	ロッカー上 の隙間	その他

※1 単位 A~D は保管場所であるロッカー1~3、ロッカー上の隙間にそれぞれ準拠して設定。

※2 資料点数は 4715 点。

1)同窓史編纂資料

資料群のうち、単位 A は同窓史編纂の際の原稿・資料・アンケート回答と、その収集時に生まれた書簡で成り立っている。同窓史編纂に際し、資料収集の中心を担ったのが各語科同窓会に設置された編集委員会であったことから、これら同窓史関連の資料群は、主として語科ごとに構成されている。

多くの語科では、卒業生に対し、同窓史への寄稿を呼びかけるとともに、封書でアンケート調査を行った。アンケートの内容は概して、在学時代の思い出、卒業後の経歴、そして顕著な功績を遺した卒業生について自由記述を求めるものであり、資料群にはその回答が多く含まれる。また、外大出身者の多い企業に対しても、卒業生の赴任先等に関する調査が行われ、卒業生の就職状況が重要な関心事項となっていたことが分かる。

アンケートに加え、語科ごとに卒業生の活躍に関する記事や文献などの資料の調査・収集が行われた。その為、該当する新聞記事・書籍のコピー、卒業生からの寄贈物が資料群に散見される。中でも、資料番号 E-5-7 の卒業生岩崎雄二郎氏からの寄贈物には、昭和 17-18 年の「學則」、「受験證書」、「領収證書」などの受験書類や、軍需工場への動員を物語る工場生産擔當者からの「表彰状」が含まれ、戦中期の在学の様子を克明に伝える貴重な資料と言える。また、A-1-2-4 には「昭和十六年ジョバンニ キエーザ先生」「昭和十五年頃 生徒控室」等の写真が、A-33 には昭和初期の商業数学や中国語教育に使われた「支那語教科書」（資料番号：A-33-12~16）がそれぞれ含まれ、総量としては多くはないが東京外国語学校・東京外事専門学校時代の歴史を示す資料群が確認できる。

他方、A-35 には、同窓史編纂事業に際して開催された編集会議や事業報告に関する資料が含まれる。これらは、事業の全体像を示すものであり、先述した編纂事業の概要もこれらの資料群に依拠した。また単位 B の B-1~32 については、昭和 30 年-40 年代の東京外語会総会・理事会の会議記録や発着信の FAX・メールをまとめた綴や、創立 75 周年記念事業の際の活動の記録が含まれ、今後の記念事業を進める際の参考となる資料でもある。

2)同窓会会員名簿

単位 B は主として 1970 年代までの同窓会名簿や卒業生名簿で構成される。名簿もまた、同窓史編纂資料と同様に基本的に語科別で作成・保管され、それら語科別の名簿に加え、「放送 FLS 会名簿」、「日通外語春秋会名簿」、「JTB・FLS 名簿」など卒業生の多い企業の名簿や、「東京外語仙台支部会員名簿」、「東京外語近畿同窓会員名簿」など地域支部の名簿が含まれる⁴。また、B-111 は戦後 1949 年 1 月に外語の出身者の懇談会組織として結成された「三五會」の議事録をまとめた綴もあり、外語出身者の卒業後の関係を示す資料となっている。

3)会報・東京外国語大学新聞

東京外語会の会報も資料群の重要な一角を占める。中でも単位 C-b には戦前以来の会報の原本が確認でき、今回寄贈された会報の原本を列挙すると表 3 の通りである。先述した同窓史編纂の資料群(単位 A)にも、会報の該当記事のコピーが数多く含まれており、会報が同窓生(卒業生)の歴史を語る上で重要な資料となっていることが指摘される。会報が、『会報』、『外語同窓會誌』、『東京外語會報』、『東京外語會會報』と名称が変更されている背景には、先述の同窓会組織の変遷がある。

⁴ 資料内の FLS は前身の東京外国語学校「Foreign Language School」の頭文字に当たる。

【表 3】資料群内に確認できる会報

会報名称	号数	刊行時期
會報	第壹號、第貳號	明治三十一年十二月、明治三十二年四月
外語同窓會誌	第五號-第七十八號	昭和拾年三月一日～昭和十七年五月三十日
東京外語會報	第七十九號～第八十九號	昭和十七年十二月一日～昭和十八年一月一日
東京外語會會報	第 1 号～第 63 号	昭和 32 年 11 月 1 日～平成 4 年 6 月 1 日

また、同窓会の会報と並ぶまとまりのある資料群として、『東京外国語大学新聞』（資料番号：東京外国語大学新聞）の存在を指摘できる。『東京外国語大学新聞』は 1950-80 年代に新聞部によって発刊された新聞であり、一部欠号が見られるものの本学の動向を在校生の視点から検証できる貴重な資料群となっている⁵。なお、2009 年『東京外国語大学新聞』回想録（B-33）という形で、新聞部に所属した卒業生による回想録が刊行され、資料群内に含まれている。

4) その他特徴的な資料群

最後に上記以外の特徴的な資料群について紹介する。単位 C-c には学園紛争関係の資料群が多数見受けられる。資料番号 C-c-16 は卒業生の和田博氏からの寄贈物であるが、紛争時に配布された各団体のピラと、当時撮影された、学生が占拠した校舎の写真で構成されている。個人でこれだけの資料群を保管されていたことは驚きであり、同資料群は紛争による校内の混乱を示す貴重な資料群と言える。他方、資料番号 C-c-1「大学紛争」の資料群では、学園紛争時の掲示の下書き等、大学側の動向を伺い知れる資料が多数含まれ、両者を検討することで紛争時代の外語の様子が多角的に検討できるであろう。

テーマ性のある資料群としては、単位 C-c に外語祭関係の資料群が含まれ、特に戦後直後の外語祭プログラムなど貴重な資料群も散見される(C-c-32、C-c-34～41)。

以上、資料群の全体像を概観したが、詳細は 18 頁以降の目録を参照されたい。

以上 文責(倉方慶明)

⁵ 今回寄贈された資料群の中で原本の欠号が見られたのが以下の号数である。2-4、7-8、25、27-28、33-34、36、39-40、108、122、124、136、154-155、163-164、166、173、175-178 号。

2. 寄贈の経緯と整理経過

東京外語会資料の寄贈から整理に至る経過を概観する。

(1)寄贈の契機

2012年4月の発足以降、大学文書館はその一つの使命として、本学の歴史の変遷に関わる資料群の収集を掲げ、ホームページ等を通じて、学内外に資料の寄贈を呼びかけてきた。本学の同窓会組織である東京外語会には、発足直後より同会会報誌『東京外語会々報』(2012年6月発行)に、「東京外国語大学文書館の発足」の題目の記事を掲載させて頂くなど、資料群の寄贈呼びかけに協力を頂いてきた。今回の資料群の寄贈もそうした同窓会組織の協力の一つである。

資料群寄贈の契機は、2012年7月末、東京外語会プラザの鐘ヶ江有道氏より、外語会事務局からの預かりものとして、「外語会保存資料目録」(2012年7月31日版)を拝受したことにさかのぼる。目録の内容は、当時、外語会事務局(本郷サテライト2階)が保管し、目録化を進めていた資料群であった。

翌8月上旬、外語会事務局長古澤氏より、目録の最新版をメール送信頂くとともに電話にてその資料群の調査協力依頼を行った。その際、①基本的に所蔵資料を一括で寄贈頂きたい旨、②資料収集前に保管環境の現状記録化をさせて頂きたい旨を打診し、その了承を得た。

(2)事前調査 一保管場所の現状記録一

2012年8月31日、大学文書館館員(倉方)が本郷サテライト2階東京外語会事務局を訪問し、東京外語会の古澤晴彦事務局長、山崎孝氏と寄贈に係る打合せを行うとともに、事前調査を実施した。

まず打合せでは、資料群の一括寄贈と早期の移管を確認した。特に資料の保管場所の都合から資料群の早期の移管が望まれ、翌週には大学への移動を行うこととなった。その為、打合せ後に、簡易的ではあったが、資料移管に向けた保管の現状記録化を行った。

現状記録に際し実施した内容は、①資料の保管環境・来歴に関する聞き取り調査、②保管方法(場所・状況)の記録化である。調査には打合せ同様に東京外語会の古澤事務局長、山崎氏に協力を頂いた。以下、調査の概要をまとめる。

1)資料の保管環境・来歴に関する聞き取り調査

資料は元々、同窓史編纂の際に収集されたものであり、収集時の事務局である東京外語会銀座分室に保管されていた。本郷サテライト2階への事務室移管に伴い資料が移管され、それ以降、下記に示す事務室ロッカー内に保管されて来た。

移管後は、資料内に含まれる会員名簿が、まれに会員の消息に関するレファレンスで利用される以外に特別な利用はなく、閲覧等の利用に供する機会・環境も整備されていなかったという。

2)資料の現状記録

資料群は先述の通り、外語会によって簡易目録の作成が行われていた他、2012年8月31日に調査訪問した時点で、既に資料群は保管場所のロッカーから作業机に移されていた。その為、資料群が収集・利用されていた年史編纂時の「原秩序」については情報を得ることが出来なかった。

従って、今回は訪問時(8月31日時点)に聞き取りを行いながら確認が取れた本郷サテライト2階での保管状況を原秩序として、現状の記録化を行った。

事前調査の手順は次の通りであり、

- ①保管場所の確認及び「ロッカー番号」の設定、
- ②配置図の作成・写真撮影・寄贈対象の選定、
- ③保管状況の調査

以下、その概要を記す。

①資料の保管場所の確認・「ロッカー番号」の設定

資料群は、事務局内の3架のロッカーにまとめて保管されていた(図1・写真2参照)。今回はそれぞれのロッカーに1~3の番号を付した。

3架のロッカーは年史編纂の際の収集物を保管するロッカー1、会員名簿を保管するロッカー2、外語同窓會誌や東京外語会々報の会報を中心とするロッカー3に、それぞれ内容別に分けられ、各ロッカーの状況は図2を参照頂きたい。また別置資料として、『東京外国語大学新聞』の製本版がロッカーの上の隙間に配置されていた。これは大型資料であるため別置されていたと考えられる。

②配置図の作成・写真撮影・寄贈対象の選定

次に資料の配置場所を記した配置図(図1)を作成するとともに、各ロッカーの撮影を行った。なお現状記録にはスケッチも併せて採録することが望ましいが、今回は人的・時間的制約から写真撮影をスケッチの代用とした。

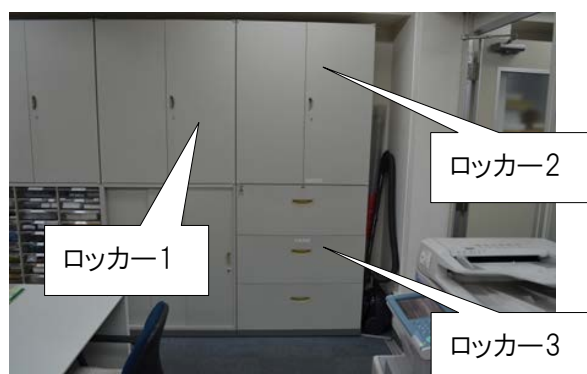
【写真1】作業机上の資料群

(2012年8月31日撮影)

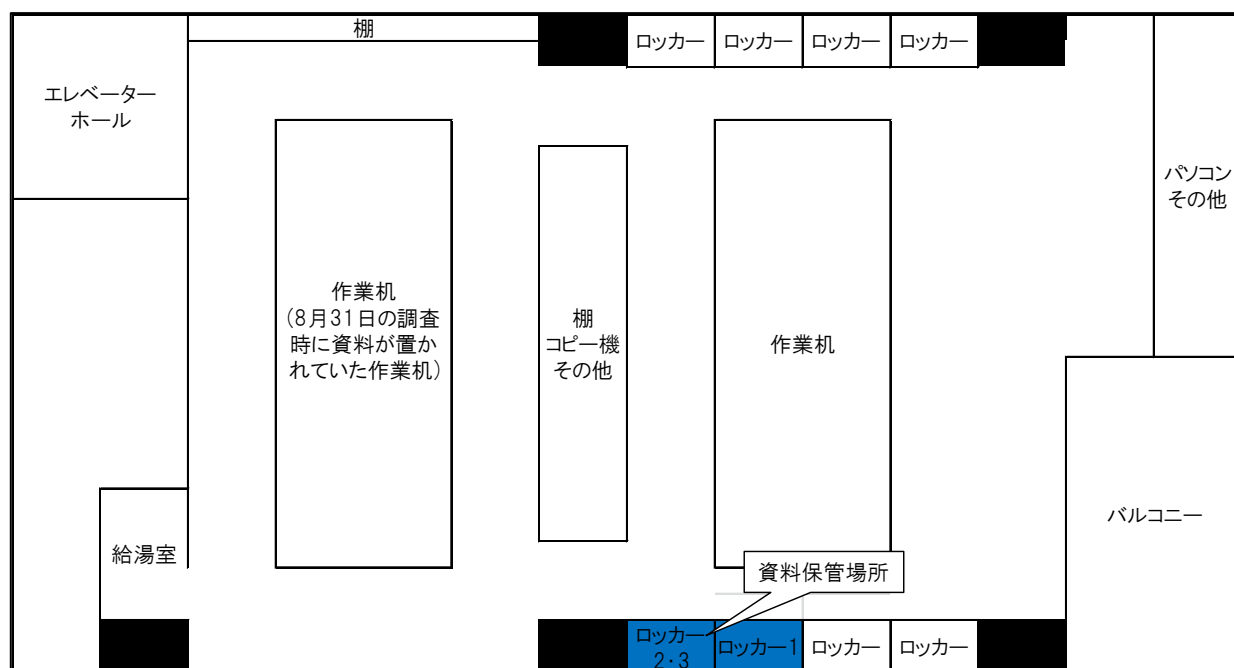


【写真2】資料が保管されていたロッカー

(2012年8月31日撮影)









【図1】東京外語会事務局(本郷サテライト)資料保管場所配置図 (2012年8月31日時点)



撮影と同時に古澤事務局長、山崎氏の協力を仰ぎ寄贈対象の選定を行った。当初より寄贈対象とされていた資料群はロッカー1(上段・中段)・ロッカー2(中段)の資料群であったが、今回の調査の過程で、一見して戦前期のものとも分かる資料群を外語会が所有していることが判明した(ロッカー3の資料群)。会員名簿等は外語会としてはレファレンス等への対応から、その内容情報が必要であるとのことで、寄贈の対象としていなかったが、酸化等による資料の劣化が著しく、また非常に貴重な資料であることから、文書館に保管し目録化を進めることとなった。

なお、それ以外にも、ロッカー内に会員名簿や同窓会関係の冊子を確認したが、レファレンス対応への利用を考え、寄贈対象としなかった資料も存在する。

【図2】ロッカー1～3の現状記録(2012年8月31日撮影)

ロッカー1		<table border="1"> <tr> <th>ロッカー1</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>上段</td> <td>年史編纂資料(8月31日当日は作業机に置かれていた資料群)</td> </tr> <tr> <td>中段</td> <td>同窓会関係書類(会議資料 他)</td> </tr> </table>	ロッカー1	内容	上段	年史編纂資料(8月31日当日は作業机に置かれていた資料群)	中段	同窓会関係書類(会議資料 他)		
		ロッカー1	内容							
上段	年史編纂資料(8月31日当日は作業机に置かれていた資料群)									
中段	同窓会関係書類(会議資料 他)									
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">調査時には資料は机の上に移されていた為、空きスペースとなっている。</div>										
ロッカー2		<table border="1"> <tr> <th>ロッカー2</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>上段</td> <td>同窓会会員名簿、阪大同窓会名簿他</td> </tr> <tr> <td>中段</td> <td>会報(露西亜會會報 他)、三五会関係綴 他</td> </tr> <tr> <td>下段</td> <td>同窓会冊子(『ゲルマニア』他)</td> </tr> </table>	ロッカー2	内容	上段	同窓会会員名簿、阪大同窓会名簿他	中段	会報(露西亜會會報 他)、三五会関係綴 他	下段	同窓会冊子(『ゲルマニア』他)
		ロッカー2	内容							
		上段	同窓会会員名簿、阪大同窓会名簿他							
		中段	会報(露西亜會會報 他)、三五会関係綴 他							
下段	同窓会冊子(『ゲルマニア』他)									
ロッカー3		<table border="1"> <tr> <th>ロッカー3</th> <th>内容</th> </tr> <tr> <td>上段</td> <td>外語同窓会誌 他 (昭和初期の資料群)</td> </tr> <tr> <td>中段</td> <td>東京外語会会報(21号～)</td> </tr> <tr> <td>下段</td> <td>東京外語会会報(64号～110号)</td> </tr> </table>	ロッカー3	内容	上段	外語同窓会誌 他 (昭和初期の資料群)	中段	東京外語会会報(21号～)	下段	東京外語会会報(64号～110号)
		ロッカー3	内容							
		上段	外語同窓会誌 他 (昭和初期の資料群)							
中段	東京外語会会報(21号～)									
下段	東京外語会会報(64号～110号)									
										
ロッカー3 上段	ロッカー3 中段	ロッカー3 下段								

③保管状況の特色

資料群は各ロッカー内で、それぞれファイルや封筒・紙袋への梱包、紐・ビニールで括られ保管されていた。また、昭和初期など古く貴重な資料群については、酸化・破損といった劣化が見られ、それらは個別にビニール袋に梱包されていた。

資料群の細かな分類状況については目録を参照されたいが、調査時に確認できた特徴的区分としては、東京外国語学校時代以来の言語区分「語科」を基本とする分類が確認できた。特にロッカー1の年史編纂関係の資料群は、語科ごとに紙袋や封筒で区分され、現在も東京外国語大学でしばしば用いられる言語の頭文字がその表題として付されていた(図3参照)。また、年史編纂関係の資料群では、英・仏・独・伊の各語科が紙袋・封筒等が2つつあるのに対し、東南アジア諸語科が「インドシナ」に一括され、アラビア語・ペルシア語・日本語の3語科が一括されていた点は、各語科の歴史の長さが資料群の量にも影響していると推察される。

語科区分についてはロッカー2の会員名簿においても、同様の分類が確認できた。他方、会報が多く含まれるロッカー3の資料群については上段に昭和初期の『外語同窓會誌』が、中斷・下段に『東京外語會会報』がそれぞれ保管され、年代別の分類がなされていた。

【図3】ロッカー1に見られる「語科」区分

区分	紙袋・封筒・クリアブックの表題	合計数量	備考
イタリア	[紙袋]I1 [紙袋]I2	2	
アラビア ペルシア 日本	[紙袋]A Pr N 百年史資料	1	
スペイン	[紙袋]S	1	
インドシナ	[紙袋]インドシナ(Ic) タイ ベトナム ラオス カンボジア ミャンマー [クリアブック]「Ic」	2	ヒンドスタニー(インド・パキスタン) 学科が一部含まれる
フランス	[紙袋]フランス科① [紙袋]F②	2	
英語	[紙袋]「E 百年史資料」 [紙袋]「E (2) 百年史資料」	2	
ポルトガル	[封筒]Po 百年史資料	1	
ドイツ	[紙袋]百年史 D 科資料 [紙袋]フランス②	1	表題「フランス②」の紙袋にドイツ語科 の資料群あり
中国	[紙袋]「C 中国語百年史資料」	1	
フィリピン	[紙袋]「Ph 百年史資料」	1	
モンゴル	[封筒]「M 百年史資料」	1	

※区分の名称は目録の原文、順番は目録の資料番号にそれぞれ準拠した。

(3)資料の移管・整理作業

1)移管作業

2012年9月5日、東京外語会事務局(本郷サテライト)より文書館へ寄贈資料を移管した。移管作業は文書館館員(倉方)が担当した。移管に当たっては、先述の通り、ロッカー1~3に大別された資料群の原秩序を維持することに留意し、13個の段ボールに順番に梱包した(図4参照)。原則的に原秩序を維持しながら、箱詰めをしたが、運搬中に原秩序が崩壊する可能性を考慮し、段ボールに移し替える前後に資料群の撮影を行った。なお運搬前後の資料写真については図4を参照されたい。

【図 4】資料群の移管前後の様子（2012年9月5日撮影）

ロッカー1 上段・中段(その1)				
移管前				<p>※2枚の写真を合体させているため中央部分に切れ目あり</p>
移管後				
	ダンボール 1	ダンボール 2	ダンボール 3	
概要	<p>同窓百年史原稿・資料・アンケート回答(イタリア語科、アラビア語科、ペルシア語科、日本語科(留学生別科)、スペイン語科、インドシナ科、フランス語科、ドイツ語科、英米語科、ポルトガル語科、中国語科)</p>			

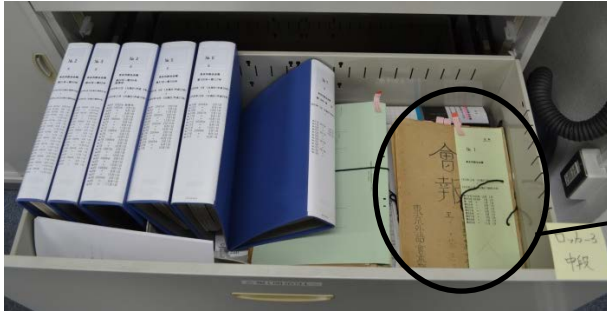
ロッカー1 上段・中段(その2)				
移管前			<p>※全体写真の撮影が困難であった為、左は資料群の一部のみ。</p>	
移管後				
	ダンボール 4	ダンボール 5	ダンボール 6	
概要	<p>同窓百年史原稿・資料・アンケート回答(フィリピン語科、インド・パーキスタン語科、モンゴル語科、インドシナ語科)、卒業生名簿、就職状況調査資料、同窓百年史編纂・発刊に関する会議資料(事業報告等)</p>			

ロッカー2 中段	
移管前	
移管後	
概要	発信・着信文書綴、東京外語会理事会名簿・会議資料(収支報告書・総会資料・創立75周年記念事業等)、会員名簿、三五會関係書類綴
備考	運搬時のダンボール数削減の為、ロッカー3 下段の資料群の一部と一緒に梱包した。それらロッカー3 の資料群については文書館へ移管後に「ダンボール13」と単位を定め、別に整理・保存を施した。 酸化による劣化が見られる資料群が多い。

ロッカー3 上段	
移管前	
移管後	
概要	同窓百年史編纂・発刊に関する会議資料(原稿進捗状況等)
備考	移管前写真の赤丸部分が寄贈対象

ロッカー3 中段

移管前



移管後



ダンボール 11

概要

外語同窓會誌、東京外語會會報

備考

移管前写真の赤丸部分が寄贈対象。寄贈対象外の資料は過去の『東京外語會會報』。劣化が著しい資料群については移管時に封筒に入れ、別に運搬した。

ロッカー3 下段

移管前



移管後



ダンボール 12



ダンボール 13

概要

東京外国語大学新聞(コピー)、学園紛争関係資料
外語祭プログラム

備考

運搬時のダンボール数削減の為、ロッカー2 中段の資料群の一部と一緒に梱包した。ロッカー3 の下段の資料群は文書館へ移管後に「ダンボール 13」と単位を定め、別に整理・保存を施した。

2)資料整理作業

文書館に移管後は移管時の段ボール毎に資料群の撮影を行い、目録の作成に入った。目録は概要目録、詳細目録の二段階に渡って作成した。概要目録は、移管された資料群の全体像を把握することを目的とし、10月9日にその作成を完了した。この時点で確認された資料の概要は、資料点数282点(資料群の概数)、内容①年史編纂の際に収集した資料群、②機関紙(東京外語同窓会誌)等発行物、③アルバム ④同窓会名簿を含むというものであった(概要は図5参照)。概要目録作成後、整理・詳細目録の整備を進めた。

【図5】概要目録

場所	棚	概要	数量(点)
ロッカー1	上段・中段	年史編纂資料(語科ごとに紙袋に梱包)、関連書籍	68点
ロッカー2	中段	会報、会員名簿(各語科)	107点
ロッカー3	上段	年史原稿、年史編纂委員会資料 他	47点
ロッカー3	中段	外語同窓会誌、東京外語会会報	8点
ロッカー3	下段	アルバム、東京外語会会報、外語祭プログラム	52点

※1 数量は概要目録作成時に採録した資料群の数。

整理作業には東京外国語大学の学部生・院生の協力を得て、資料群の細目録化・データ入力・中性紙封筒への移し替え作業を実施した。

また、作業中断中の2013年2月末に、東京外語会より会報とその関連資料の返却要請が、作業再開後の同年10月頃にも会員名簿の返却要請があり、それぞれ返却対応を行った。返却した資料群については2013年12月頃再度文書館に寄贈された。返却及び再寄贈の対象となった資料群の概要は図6の通りである。なお再寄贈後の資料群については、当初移管時の資料群の位置に戻し細目録化を行った。

【図6】返却資料概要 ※表記(点数・項目名)は概要目録時点のもの

返却日	ダンボール番号 (移管時の箱)	概要	数量 (項目数)
2013年3月5日	ダンボール11	[ファイル・簿冊]東京外語会会報 [冊子]外語同窓会誌(製本版) 他	8点
	ダンボール12	[冊子]東京外語会会報 [冊子]校友会雑誌(コピー) 他	5点
	ダンボール13	[簿冊]東京外語会会報 [ファイル]東京外語会会報 他	6点
2013年10月1日	ダンボール7	[冊子]昭和43年度・44年度卒業生名簿	2点

(4)目録作成の完了と今後

目録のデータ入力は2014年1月を以て完了し、2月～3月にかけての館員の確認作業を経て、後述の通り、全4715点の資料目録の完成を見た。整理作業を終えた資料群は、現在文書館の保管庫に保存されている。今後はこれら資料群の活用の促進が望まれ、文書館では展示場・ホームページ上における展示活動を通じて、その紹介を進めていく所存である。

(文責：倉方慶明)